

## ルールとマナー

開演前。

舞台上中央にホワイトボードが一つ置かれている。盤面に大きな字で「ルールとマナー」とかかっている。

その周りに小さい机とイスが4つつ、規則正しく配置されており、机の上には各一個ずつ電話機が置いてある。

場内のピージーエムの音が下がり、女が出てくる。

女

本日は正直者の会「ルールとマナー」にお越しいただきまことにありがとうございます。僭越ではございますが、開演に先立ちましてお客様にお願いがございます。まず、携帯電話などの音の出る器具は、電源をお切りいただくか音のない状態にしてくださいませますようよろしくお願いいたします。また、場内での飲食喫煙は禁止とさせていただきます。ご了承下さい。写真、ビデオなどの撮影も堅くお断りいたしております。また、お年寄りやからだの不自由な方には、席をお譲りください。なお、エスカレーターを降りたところでは立ち止まらないよう注意して下さい。また離陸の際には決してお席をお立ちにならず、話しをするときには相手の目を見るよう心がけて下さい。女性に年齢を聞くのは止めましょう。糞の始末は飼い主が責任を持ってしましょう。また、レンジで暖めるときは別の容器に移して下さい。餌を与えないで下さい。虫歯になります。パーマは禁止です。いじめ、かっこわるい。ダメ、絶対。痴漢、あかん……

「Lesson 3003 (part1) Pizzicato Five

がこの台詞の途中からF.I.してきている。

男12345が現れ、曲にあわせて舞台上を縦横に歩く。男達は途中、ニアミスしたりすると「握手」「会釈」「ハイタッチ」「ネクタイを直す」「道を譲る」「ハグ」「キス」「敬礼」などをする。やがてその動きは「ボクシング」「馬飛び」「行進」「イスを移動さす」へと変化していく。

女はその間、ホワイトボードを奥に押しに行き、書いてあった文字を消した後、あたらしく、8つつの「ルールとマナー」を箇条書きにしていく。

「満員電車」「お電話です!」「ナイフとフォーク」「早すぎたキス」

「Mr. ジャッジマン」「迷信高速」「お通夜」「No smoking」

曲がC.O.すると同時に六人はストップモーション。

「六人とイスが一脚」

六人は、やがて、直立し、自分以外の五人との距離を保とうするように位置をゆっくり変えていく。

そこには何かのルールがあるようで、そのなかでの駆け引きがあるようだ。

やがて、六人はそのルールに「大胆」に添う形でそれぞれの距離を詰め始める。六人の体は舞台中央で密接する。男2はイスにすわる。集団の中央に向かう形でイスに座る。

(お客に真後ろを見せる形)

照明変化(暗転でもよしか?)。

音響、電車の音。

満員電車の車内である。ぎゅうぎゅう詰めの人。真ん中に男1。それ以外は全員男1に密着した形、ややうんざりした顔をしている。男1だけは窓の外をみて、楽しそうにしている。  
時折、誰かが咳払いをする。会話が徐々に連れて「咳払い」は頻度を増し、大きくなっていく。

男2 (男1に気づき)・・・なに？

男3 へ？

男1 へ？

男2 いやいや (男3に)

男1 俺？

男2 うん。

男1 へ？何？

男3 どうしたの？

男2 いや、楽しそうだなーと思って。

一同 (笑ったり)

男4 これ楽しいですか？

男1 いや、

女 何が楽しいんですか？

男1 いやいやいや、あの、よくやらない？こつ、

男2 へ？

男1 窓の外をさ、こつ、家の屋根とかがびゅんびゅんびゅん飛んでくじやない。

男2 その上をね、こつ、忍者が、こつびょんびょんって飛び移っていくのよ。

男2 へ？

女 なんですかそれ？

男1 いや、そういう空想を。

女、男23 ええ？

男45 やるやる (など)

男45 あーはいはい (など)

つまり、男145は、そういう空想をする。女と男23はしない。

男1 するよな、そういう空想。

男5 するする。

女、男23 へ？ (など)

男1 え？しない？

女 しないで。

男23 俺も (など)

男1 あそっかー。

女 え？どういう空想ですか？

男1 だからあ、こつ、電車と同じスピードでね、窓の外の屋根の上とかをこつびょん

びょんびょんびょんとかかって、飛びうつりながらついてきてるの。

男4 そうそう。

女男2 へー・・・

男3 えー？

男1 あーしないんだ・・・

男4 いやしますよ。

男1 なあ、するよな。

男4 はい。時折障害物とかに当たったりしてね。  
 男1 そうそうそう。大幅に遅れるのな。  
 男5 え？忍者  
 男1 忍者忍者。  
 男5 ああ、忍者派ですか・・・  
 男1 え？何派？  
 男5 俺、コナン派  
 男1 あーなるほど、わかるわかる。  
 男3 え？名探偵ですか？  
 男15 なんてだよ(など)  
 男5 「未来少年」に決まってんだろ。  
 男3 え？  
 男5 え？おまえしらないの？  
 男12女 ええええ  
 男3 え？いや  
 男4 あ、はい。いいっすか？  
 男5 何？  
 男4 僕、スーパーマリオ派です。  
 男15 ああ。  
 男4 だからね、飛ぶときに、心の中で、こうイーボタンを押すんですよ。  
 男1 ふーん。っていうか、ホント知らないのお前？  
 男3 知らないです。  
 男125女 ええ？  
 女 なんて？  
 男3 なんてっていわれても・・・。ていうか、そもそもね。なんでそんな空想をするんですか？  
 男1 ええ？ああ、いや、暇が潰れるから。  
 男3 ああ、いやそれなら僕もありますよ。  
 男1 何？  
 男3 空想じゃないですけど、あの、特急とかで窓際に座ったときに、電線ごとずうつと見てるんですよ。  
 男5以外 ああ、それはやるね(など)  
 男5 ああ、俺それやらないわ。え？どういふこと？  
 男3 だからね、こう電線をずつとみてるよ、こう、ブォンブォンって、上下に動くんですよ。  
 男35以外 うんうん(など)  
 男5 ああ・・・。電線があ、上下に動くとき楽しいの？  
 男3 いや、楽しいって言うか。  
 男5 嬉しいの？  
 男5以外 いやいやいや・・・(など)  
 男5 電線が上下に動くとお前らはハッピーなのね。  
 男2 だから、ハッピーとかじゃなくて暇が潰れるってこと言ってるんでしょ今。  
 男5 わかってるよ・・・(わらいながら) ああ。でも、しないなあ。っーか俺以外全員するんだ？  
 男45以外 しますね。(など)

男4 あー、僕はね。上下に動く電線見ながらなら、ご飯3杯ぐらい食べられますね。  
 男5 ふーん。あのさ、じゃああれは？子供の頃、車で高速とかを走ってるときに、横  
 の白線が、途切れて、現れて、途切れて、現れてするのに合わせて、横を走って  
 る人がジャンプするとかは？  
 男1 あーしました。  
 女 (笑いなながら) ああ、私それはしませんでしたけど、こう子供の頃後部座席に弟  
 と一緒に座らされて、・・・  
 何？  
 男1 あのね、弟と一緒に、後ろの車を、拳銃でばんばん撃ちまくってましたね。  
 女 (笑う)  
 男3 あぶないなあ・・高速でしょ？  
 男5 エキセントリックですねえ。  
 男2 あのさあのさ、高速道路は、あの、あれよ、なんか、左っかわに、車をこう、緊  
 急の時にかに停車できるようにへこんでるところあるじゃん。  
 一 同 はいはい (など)  
 男2 あれ、こう、何メートルおきって言うか何キロ置きかにあるわけじゃない。んで、  
 そのへこんでるところから次のへこんでるところにつくまでの間に、こう、数字を  
 男1 女 あーはいはいはい。  
 男2 なっ。自分でえ、  
 女 そう  
 男2 勝手に200なら200って決めて、(早口で) 12345678910・・・って  
 ガーって早口で心の中でかぞえて、200まで数え切れなかったら、アウト、み  
 たいな。  
 男3 やったな (など)  
 男1 数がぞえたな。  
 男4 息止めたりもしませんでした？  
 男3 しました。電柱から電柱までとか。  
 女 しました。電柱にさわってるときだけ呼吸できるの。それで、息止めて次の電柱  
 までダッシュとか。  
 男2 あと、マンホールとか、  
 女 男1 そう (など)  
 男2 横断歩道の白いところを踏むとか。  
 男3 口をきかないとか。あと、石を家まで蹴って帰るとか。  
 一 同 はいはいはい。 (など)  
 男2 なんだったんだらうな？あの、自分で自分に課した意味のないルールは。  
 一 同 なあ (など)  
 男4 課してましたね、ルール。  
 男1 しかもさあ、「このルールを守れなかったら、俺は死ぬ」とか。  
 一 同 そうそうそう。  
 男1 なあ！  
 男2 なんだったんだらうな？あれ。  
 一 同 ねえ (など)  
 男2 ほら、ゴミ箱にゴミ一つ入れるのに、わざわざ離れて、投げて、それで入らな  
 かったら「俺死ぬ」って、  
 男5 ちよっとあれだよな、こう、自分に厳しすぎるよな。

女 ああ、自戒ですよね。  
男2 自戒ね。  
男5 うん。俺たちは、昔はもっと自分に厳しかった。  
一同 ああ。  
男3 そして、やたらめったら「命をかけ」ませんでした？  
一同 ああああ！！かけたかけた（など）  
男1 一日に3回ぐらいかけてた。  
男4 何かっつーとかけてましたね。  
男3 すっごいささいなことにも、命をかけてとりくんでましたね。  
男2 あれ、あの頃、女の子もやっぱり、命かけちゃったりなんかしちゃったりなんかしてたの？  
女 かけちゃってましたねー。もうしょっちゅうかけてましたよ。  
男2 へえ・・・  
男3 今思うと、あの頃、ほんと「毎日命がけ」でしたよね。  
女 よく死にませんでしたよね・・・  
男5 うん。生き抜いてきたんだよ・・・  
男4 あの頃に比べたらねえ。最近の僕たちはあれですよ、もう、ぬるま湯ですよ。  
男2 ああ、命の代わりにお金をかけるようになったね。  
男1 なんかに寂しいな。  
男3 なさけないですね。  
男2 かんがえたらさあ、小学校とかすごいいよね。  
男3 ああ。  
男2 もう「命知らず達」の集まりだからね。  
男3 もう、お楽しみ会とかは、あれですよ、「命知らず達の宴」ですよ。  
男2 そりゃ「学級崩壊」もするよ。  
男3 先生ってすごいですよね。何十っていう、命知らず達をあいてにしてるわけだからね。

これまでの会話の間に咳払いが多く大きくなり、「台詞をしゃべっている人以外はせき込んでいる」レベルにまで達した後、今度その咳払いは口笛にスライドしていく。その口笛も伝染していき、「台詞をしゃべっている人以外は口笛をふいている」レベルに達する。誰かが「恋のテレフォン、なんとらんたら」のイントロ部分を吹き出す。八毛るかたちで伝染する。

と、女は集団を離脱し、机の上の電話を取る。

女 もしもしありがとうございます。京都グランプリホテルでございます。はい、はい、はい・・・

などと、電話の対応をする女。男235は残り机にそれぞれ座り、仕事を始める。男4はそのまま退場。男1は後ろのホワイトボードにかかれた「満員電車」の項の上に横線を引いて退場。

※別テキスト「スポーツ電話」※

男3 (電話にでて) はい。ありがとうございます・・・えーと、田舎の母親に。

男1はホワイトボードの「お電話です!」の項を、文字の上にペンで横棒を書いて「消す」。

男4 (入場しながら)と、いうことは・・・。

ホワイトボードには「満員電車」「お電話です!」「ナイフとフォーク」「早すぎたキス」「Mr. ジャッジマン」「迷信高速」「お通夜」「Nosmorcking」。最初の二つは横棒が引っ張られている。

男3 次、「ナイフとフォーク」  
女 テーブル「マナー」ですね。

一同 ええ・・・

男5 これは・・・と、「Mr. ジャッジマン」をさす

男3 スポーツですね。

男5 ああなるほど。では、これは「ルール」ですね。

一同 ええ。

男1 (手を挙げて)あの、ちょっといいですか?

男4 どうぞ。

男1 これなんですけどね。(と「早すぎたキス」をさす)

男4 ええ。

男3 恋愛におけるってことでしょうかね。

男1 そうなんですけど、恋愛にルールなんてないんじゃないですか?

一同 おお・・・

男1 気づいたら、いつの間にか好きになっていた。それが恋愛でしょう。

一同 おお・・・

女 いや、そうとも限りませんがね。

男1 そうですか?

女 ええ、こればかりは。

男1 そうですか・・・

男2 え、じゃあ、これは「ルール」ではなく「マナー」だと。

男1 そう思います。

男4 どうですかみなさん?

男5 僕もこれは「マナー」だと思います。

男2 恋愛においては「ルール」ではなく、それは「マナー」であると。

男1 5 ええ。

男3 ほう。これは「マナー」だと思われる方。

男1 4 5 挙手

男3 「ルール」だと思われる方。

男2 3 挙手

男4 おや、あなたは?

女 いえ。そもそも恋愛というのは理屈じゃないですから。「ルール」「マナー」といわれてもぴんとこないです。

一同 おお．．

男2 「理屈」ではないとすると？

女 「本能」ですか？

一同 おお．．

女 それよりも、私これが気になるんですけど。(と)「No smoking」を指さす)

一同 ほほう．．

男3 ですが、これは、れっきとしたルールなんじゃないですか？

男4 今やねえ。

男125 ええ。

男4 「マナー」などという生ぬるいものじゃないでしょう。

男3 実際法整備も進んでいますし。

女 いえ。私のいわんとするところはですね、すなわち、これは「ルール」や「マナー」ではなく、「モラル」ではないのか？ということなんです。

一同 あっ(など)

男2 「モラル」ですか．．なるほど．．確かに実際に触れるケースはまだ、希ですしね。

女 ええ。

男4 ちょっと待って下さい。

男2 はい。

男4 そうなると、「ルール」というのは、すなわち「法律」であるということですか？

女男2 いや、

男2 そこまで短絡的なものではなくですね。

男1 でも、いまの言説はそういうことになってしまいますよ。

男2 そうか．．．ええ。そうですねえ。

男3 あの。

男1 どうしました？

男3 話しを混乱さすようで申し訳ないんですが、

男5 かまいませんよ。こういうことは徹底的にやらないと意味がないですから、ねえ皆さん。

一同 ええ。

男3 はい。今、我々が問題としているのは、「ルール」「マナー」そして「モラル」の定義だと思っんですが、同時に「エチケット」という言葉の定義もすすめるべきではないでしょうか？

一同 おお。

男2 確かにその通りだ。

男4 ですねえ。

一同 ええ。

男3 話しが少し複雑になりましたが、私は、(と、ホワイトボードに書かれた文字を全部消して、図を書き始める。丸を縦に四つ並べてかき、それぞれの中に上から、「ルール」「モラル」「マナー」「エチケット」と書き入れる。)こんな感じかなと思うんですが。

女男24は関心と言う感じのリアクション。男15は否定的なリアクション

男1 いやー、「モラル」の上位に「ルール」がくるというのはいかなるものですかね？

「ルール」は「モラル」を基準としてできあがるものではないでしょうか？

いや、一概にそうとは言えない部分もありますよ。

男2 そうですか？

男2 そうですよ。「インモラル」だからこそ「ルール」にしなければいけないこともあるでしょうし、「ルール」から漏れているもので、それでもかなりの強制力をもって遵守するべきものが「モラル」であるとするこの図は、あながち間違いではない気がします。

男5 いや、あのね。「遵守する」「させる」といった、付属するものとはまた別個に「ルール」や「モラル」というものは独立して、存在するはずで、えーとなにが言い

女 たかったのかな・・・

私むずかしいことはわかりませんが、これ・・・と、上下で接する全ての円を、

面積を広げて重複させます。つまり、マナーでもありエチケットでもある部分を作る（こうなんじゃないですか？

男4 ああ、それはそうだと思いますね。人と合う前にトイレの鏡で鼻毛をチエックしたりするのとか、このエリアですね。（と「マナー」と「エチケット」の重複したところに「鼻毛」とかく）

男4 うーん・・・

一同 話しをスムーズにするためにこのエリア、仮に「鼻毛」と呼ぶことにしましょうか。

男1 はい・・・。

男1 歯磨きは「鼻毛」ですかね？

男5 いや、歯磨きはエチケットでしょう。

女 でも、口臭予防という観点から考えれば、「マナー」とすることもできるんじゃないですか？

男5 そうか・・・

男3 手を洗うとかはどうですか？

女 ああ、「手洗い」は「鼻毛」ですね。

男2 うん。「手洗い」は「鼻毛」です。

男3 かなり「マナー」よりの「鼻毛」ですね。

女 あの、「うがい」は「鼻毛」ですかね？

男1 「うがい」？「うがい」は鼻毛ではないでしょうか？

女 では「マナー」ですか？

男1 「マナー」・・・

女 「エチケット」ですかね？

男1 「エチケット」・・・

男2 「ルール」だった時期がありましたけどね。

女 それ幼稚園のころでしょう？

男2 ええ。

男5 じゃあ、うがいはどうですかねえ・・・また、別個にあるんですかねえ・・・

男4 こういうことですか（あらたに、空いているスペースに丸を書き、そのなかに「う

女 がい」と書き込む）

男5 ええ・・・



女 「いつてきますのチュー」はどうなりますかね？

一同 おお

男4 女性らしい意見ですが・・・

男2 これもやはり・・・

全員ホワイトボードをみて、どこにはいるか考えるが・・・  
男4がまた、空いているところに丸を書きなかに「いつてきますのチュー」と書き込む

男4 こういうことですかねえ。

一同 うーん・・・

全員ホワイトボードを見ている。

男5 この図は・・・どうなんですかね・・・？

女 なんでしようねこれ？

男5 やっぱり別個に考えていくのは危険じゃないですか？このまま増え続けていく気がするんですけど。

女 確かにね。

男5 ですから、今のところどこにも属さないこの二つはとりあえず、一緒にしておきましょう。

男2 いやいやいやいや・・・あなた、その方が危険ですよ。

男5 そうですか？

男2 そうですよ。「うがい」とですよ、「いつてきますのチュー」が一緒だなんて言ったら、私かみさんに殺されますよ。

男5 ああ、それはもう、殺されればいいんじゃないですかね。

男2 あなただいたい面倒くさくなってきてるでしょ？

男1 まあまあまあ、ね。ちよつと、ちよつと話しが膨らみすぎましたね。

男3女 そうですね。

男1 そこでどうでしょう？まず、「マナー」と「エチケット」に問題をしぼりませんか？つまり、どこからが「マナー」でどこからが「エチケット」なのか？

男4 「鼻毛」は・・・

男1 もう一旦置いとぎましよう、ええ。

男4 はい。

男1 どうですかね？

女 いいと思います。

男1 皆さんもそれでいいですか？

一同 ええ(などのリアクション)

男1 では、えー・・・

問。全員考え込む。

男2 「マナー」って、・・・英語ですよね。

女 ええ・・・

ややの間の後、全員男2が何をいわんとしているのか気づく

男2 そう！かたや「エチケツト」は  
フランス語。

女 間違いありませんか？

男2 ええ間違いないわ。

男3 そうか！つまりそういう言うことですね。例えばえーっと……そうっ！飼犬  
の糞の始末をするという行為を例に挙げると、マナーの場合は……(アメリカ人  
は、犬の糞を始末するパントタイムをする。「ウォ」とか)こういうことだなあ！  
そう！そうだよ……！

一同 そしてエチケツトの場合は

男4 (せきばらい。したのち、フランス人っぽく犬の糞を始末するパント。糞を拾い  
上げ手のひらに載せ、ワイングラスのようにゆらしたり)  
一同 なるほど、そうか、そうだったのか。「モラル」は何語だ？

などと言ってる間に暗転していく。

スライド。「迷うフランス人」

明転

舞台上には男4。道に迷っている。

男4 (フランス語っぽく) えっと……(と、地図を見る)

暗転。

スライド「熱いフランス人」

明転する。男4がいる。何か熱いモノにさわってしまった。

男4 (フランス語っぽく) あっっ

暗転。

スライド「財布をなくしたフランス人」

明転。男4は自分のポケットなどを探っている。

男4 (フランス語っぽく) ……あれ？……

暗転。

スライド「お風呂に入るフランス人」

明転。男4は湯船に足をつけていく。思わず息が出る。

男4 ……ううう………おおおっしゅうう………(肩までつかりきり) ああ  
あおっしゅうせつそう………(なぐの息をもらす)

暗転。

スライド「死ぬフランス人」

明転。腹を押さえている男3

男4 (フランス語っぽく) なんじゃこりゃあおん………(倒れる。間……俺まだ

死にたくないよおうぬ……………

男5が駆け寄る。

男5　しっかりするんだ！しっかりするんだパンタロン！パンタロン！パンタロン！パンタロン！  
ン！！

女が下手のつらにでて来る。テレビを見てないている。

「太陽にほえる」のテーマ、携帯の着メロバージョンがながれる。

女の携帯が鳴っているのである。

女　（携帯をとり、誰からの着信か確認してから）もひもひ？

男2　（上手のつらに入場してきて）もひもひ☒俺。

女　うん。

男2　何？ないてるの？

女　うん。

男2　どちらなの？

女　パンタロンがね、死んじゃったの。

男2　え？

女　切るね。（電話を切る）

男2　え？

男2はすでに退場している。

男2　ちよつちよつちよつちよ……（と、電話をかけなおす）

女　もっしー

男2　もっしー。

女　何？

男2　何って……。今暇？

女　テレビ見終わったら暇。

男2　テレビかあ……。

女、電話を切る。

男2　え？もしもし？……んだよ……（とかけ直す）

女　ハロー

男2　もしもし？あのさあ

女　ハロー

男2　いや、電話急に切らないでよ

女　ハロー？

男2　いや、電話な

女　ハローハロー？

男2　電\話を

女　ハローハロー？

男2　電\話を

女 八口八口？  
男2 ……。「八口八口」  
女 八口八口。何？  
男2 いや…。テレビみてるの？  
女 さっきそう言ったよ。

男2、愛しさと猛烈なうざったさ（むかつき）がないまぜになった微妙な表情。こらえて会話を続ける。

男2 なんのテレビ見てるの？  
女 なんでしょう？  
男2 うーん、なにかなー（拳をかためている。）  
女 音聞かせてあげる。  
男2 え？いやいや…。あの、もしもし…

女、自分の携帯をテレビの方に向ける。男4がでてきている。

男4 と、こんな時。スーザン、君ならどうする？（スーザンになって）こまっちゃうわよね…。マイクあなたはどこうするの？（もとにもどって）そうだよ。今までにあった他の商品／では、…

女 さて、私はな／んのテレビ  
男2 テレビヨップ  
女 すごーい！（拍手）  
男2 いや、誰でもわかるって。  
……あのさ。

女 何？  
男2 テレビ見にそっち行っていい？  
女 テレビはひとりでみるものなり。  
男2 （更に拳を固める）  
……

男3 ものすごく時間がかかっていますよねえ。あげくのはてに十分な効果がえられないなんてことがしょっちゅう。でも、これからはもう大丈夫。この「マジカルステッカー」（と、なんちゃら組とかやくざの代紋のステッカーをだす）のさえあれば、どんな害虫もよせ付けません。店先や、車の窓に張っておくだけで効果はてきめん。かわいいお子さまの登下校など安全も確保できちゃいます。無駄なトラブルもマジカルステッカーでらくらく回避！。このマジカルステッカーが、今回なんと三万九千八百円でご提供。これはもう、買っちゃえないですよ！！今すぐこちらにお電話を

男2 いやえらく高くない？  
女 うーん、妥当だと思うよ。  
男2 え？そっなの？  
女 切るね。（切る。退場。男4も退場）  
男2 いやちょっとっ、…。もー…。、そっいうとこが好き、ああ…

男2、気分を変えて、また別の所に電話をかける。  
携帯の着信メロディー。男4が下手の奥に入場してきて、電話を取る。

男4 （誰からの着信か確認してから）まいどっ  
男2 （わらいながら）まいどっ。  
男4 おいーす…

男2 おいおいー・・・  
男4 でしたの？

男2 今暇？

男4 いや、今からくっちゃんと合コン。

男2 なにそれえ？なんで俺呼ばれないわけ？

男4 おまえはいるでしょ？

男2 それはあなた別ばらでしょ？

男4 サイテー。

男2 ははは(笑う)じゃ明日は？

男4 明日？

男2 うん。

男4 お前・・・暇だね。

男2 うん。

男4 明日はね。講習があるの。

男2 講習？

男4 ほら、俺この前、捕まったって言う話してたでしょ。

男2 うん。

男4 それで免停になっちゃって。

男2 「免停」？

男4 「免許停止」。

男2 ありやうや

男4 それで、明日、違反者講習なんだ。

男2 そうなんだ。

男4 うん。ごめんな。また今度。

男2 おい。じゃ、がんばって。

男4 はい。んじゃねー。

男2 はい、じゃー、はいはい、・・・

男4 はいはい。んじゃまた、はいー・・・

男14は「はいはいーまた、じゃあ、はい。」「などとお互いに言いあうが、いつこうに電話を切らない。そのままずっと」「はいはい」「などと声をかけ続ける。

男5がなんか、帳簿みたいなのを片手に入場。

男14ははけていく。

以降、男5はすべて客席に向かってかたりかける。

男5 (客席に向かって)えー、本日最初の講習を担当させていただきます、二宮です。

おはようございます。

99パーセント、客席の客はノーリアクションだろう。

男5 「おはようございます」

客は98パーセント、ノーリアクションだろう。

男5 (ため息)・・・。えー、はっきりいわせていただくと、皆さんはこの場にこな

くではいけなかったという、今の状況に及んで、未だに自覚が足りないのではないかと思うわけです。「ルールとマナー」という題名の教本を取り出す）これです、皆さんの手元にも一冊ずつ配られておるかと思うんですが、今日明日の講習につかう教本と言いますか、そういうものです。えー、この表紙を開いていただくと、ここに「はじめに」・書いてあります。えー、『はじめに。社会の発展に伴い私たちが事故に遭う危険性は、ますます高くなっています。事故のない住み易い社会を作るためには、市民の皆さんの自覚と自制が必要です。大切なのは、「取り締まれないための」ふるまいではなく、「自分自身や家族を含む人の命や財産を守る」ふるまいでなければならず、ルールはそのためにこそあるのです。皆さんは、社会生活に必要な知識や技能について、自信を持っておられると思いますが、さらに、この本によって安全な人間関係への理解を深め、よりすぐれた市民となるよう、いっそうの努力を切望します。』・まあ、こうかかれておるわけで……。今ここにおられるみなさんはですね、当然ながらしかの違反をされて、それでここに今いらっしゃるわけで、えー、今日はですね。』と、帳簿をひらく（あー、やっぱりおおいですね、「挨拶無視」で捕まってこられてるかたが、35人。あと「発言者妨害」25人。多いのはそれぐらいですかね。えー逆に少ないのは、「初対面安全言動義務違反」のかたがお二方いらっしゃってますね。それと、ああー、いらっしゃいますねえ、これはもうやめていただきたい。「避妊具着用義務違反」これは・14番のかた。ねえ。いや、ホントちょっとのことですから、めんどくさがらずに。ねえ。今回にしても、罰金をはらい。今日明日二日つづれるわけで。ほんのちよつとのことめんどくさがったばかりですよ。でもこれ、大事故になることもありまからね。気をつけて下さい。えー、えーとですね。皆さんもご存じかと思いますが、今年の四月に法改正がありましてですね、社会のルールとマナーは今までと、おおきくかわりました。えー、全体的に、とりしまりも罰則もより厳しくなっております。あー特にですね、お酒関係の違反に関しては非常に厳しくなりました。

検出アルコール量の、「酒気帯び」「飲酒」と認定される数値がですね、だいぶひき下げられました。いっばいだけっていうのも、これからは絶対にだめですよ。確実に捕まります。そして、罰則の方ですが、「酒気帯び説教」で6点。もう、これだけで、一発免停です。さらに罰金も二十万三十万当たり前になりましたからね。本当に、みなさん簡単に考えず、飲んだら説教しない。徹底してください。また、これは言わずもがなですが、免許停止期間中に違反をおかされますと、これは違反の大小に関わらず、たとえば、さきほどの「挨拶無視」でもそうです。これは点数自体は一点ですが、たとえば免許停止期間に「挨拶無視」をした場合、えー、即死刑です。気をつけて下さい。では・授業に入ります。この本の第一章から第三章まで、一旦置いておきます。第四章。20ページですね。「安全な社会生活の基礎知識」これ、おおきく図にして書いてありますが、「人はたえず次の三つのことをくりかえしているのです。」「認知(情報のキャッチ)」「判断」そして「行動」と。(ホワイトボードに書く)そして、「この認知、判断、行動、という作業段階のどれかにミスがあると事故が発生することになります。特に、事故の約90パーセントは、認知の遅れと判断の誤りから起こっているのです。」「・むずかしく書いてあるんですが、まあ当たり前のことがかいてあるわけです。認知判断。これは例えば自分のスピードや相手との距離をまず認知して、それから「何をしゃべろうか」「あるいわしゃべるまいか」というのを判断する。そういうことです。また、別の側面からこの、事故の原因と言つこのを見てみるとですね、現

在起こっている事故の原因の70、80パーセントぐらいは、この「相手との距離」。この「人間距離」(書く)の問題で事故が起きておると。エーこれ。「ニンゲン」ではなく「シンカン」です。えー、しっかりと「人間距離」を空けておかないとですね。これはやっぱり事故の危険性というのはますわけです。あるいは「人間距離」を見誤りであったりですね。これは「認知」問題ですね。・・・えーではですね。みなさんにはですね。これからビデオを見ていただきます。(と、用意し始める)えー、どういう内容かというと、我々の日常生活で非常に良くあるタイプの事故、まあある意味「典型的」といえるケースを集めたもので・・・ちょっと明るすぎるかな・・・

暗転。

明転すると舞台中央に横を向いてイスが一脚。そのうえに男2が立っている。その正面。数センチの距離に男4が正座をしている。

高低差はものすごくあるが、距離はとても近い。男4の顔のまん前に男2の足がある。目をそらすのが不自然な距離。目が合うとぼつりぼつりとしやべる。

男4 はじめまして。  
男2 あ、はじめまして。(間)あ、ヤマガミといいます。  
男4 ああ。あ、マツモトです。  
男2 あ、。。。マツモトさん。  
男4 はい。

間

男2 あ。。。お仕事、何なさってるんですか？  
男4 薬剤師です。あの、薬屋で・・・  
男2 ああ、薬剤師さん。  
男4 (間)え？あの・・・お仕事・・・  
男2 あ、タクシーの運転手を  
男4 へえ・・・

間

男4 おいくつですか？  
男2 あの、26です。  
男4 あ！  
男2 はい？  
男4 私も・・・、26歳です。  
男2 へえー。じゃ、同級生、・・・ですねえ・・・  
男4 そうですねえ。

間

男2 あの、どこの出身・・・  
男4 大阪です。

男2 ああ・・・  
男4 え？(あなたは)  
男2 あ、僕は長野です。  
男4 へえー・・・長野・・・。

間

男4 スキーとか・・・  
男2 ・・・はい？  
男4 あの、お上手なんですか？(上を見上げる首がだるくなってきた、曲げて肩に乗せる)  
男2 ああ、いやー・・・あんまり・・・。  
男4 ああ  
男2 あの、何かスポーツとか  
男4 ああ・・・。ゴルフとかを  
男2 ああ、ゴルフ  
男4 え？(なされるんですか？)  
男2 あの、打ちっ放しとかですけど。  
男4 ああ、私も、コースとか、あんまりでない・・・  
男2 へー・・・あの・・・  
男4 はい？  
男2 首・・・  
男4 あ、大丈夫です。  
男2 ああ・・・。

間

暗転。

明転する。と、少し離れたところに男1が立っている。男4が男1を目視しようとする  
間。とかなり首をひねらなければならぬ位置。

男2 ・・・。(男1と目が合い) こんにちは。  
男1 あ、こんにちは。  
男4 (大きく首をひねり) こんにちは  
男1 ああ、どうも・・・。

間

男1 そんな・・・あの・・・  
男4 ええ。  
男1 いえ・・・。

間

暗転。

明転すると、男4のとなり、すぐ近くに女が男4に背中を見せる角度で立っている。男



4が女の方を向くと顔の正面に女のお尻がある位置。かなり気になっているが目線をそむけたり。

女 (男1にと目が合い) こんにちは

男1 こんにちは

女男2 (目が合い) あ、

男2 あ、こんにちは

女 こんにちは。……(男4に) あの、

男4 はいっ。あー、こんにちは

女 こんにちは

間

男4 すいません。

女 はい？

男4 あー、いえあの、(大きく息を吸う。ちいさい咳をして、また息を吸う)

男1 4女、男4の方を気にする。

男4 (見られているのに気づき) あーいやっ、違うんですよ。そーゆーのじゃ、あのー、なくて、違います、あのー、いや、

などと言っている間に暗転。  
明転すると男3も出てきている。

「六人とイスが一脚」

オープニングの曲がカットアウトして、六人が距離をとりあっていたシーンと同じ明かり。

六人はまた、何かのルールに基づいて、今度は時折挨拶をしながら位置を変えたりする。「挨拶」する事がこの位置を移動する基準となっているルールに大きく影響しているようだ。挨拶は最初「こんにちは」であるが、徐々に「チワッス」や「チース」「おはようございます」「おやすみなさい」「おつかれさまです」「ご苦勞様です」「また明日」「さようなら」と変質して行く。やがて、人が徐々に少なくなっていく、舞台上には男4が残る。それ以外の人は、出はけ口から顔をひよこっと出したり、通り過ぎたりしながら、男4に挨拶していく。男4はそれに答える。ゲームセンターのゾンビとかを撃ち殺すゲームに似ている。

「ハロー」

「アンニョンハセヨ」

「(よくわからない国のあいさつ)」

「おひかえなすって」

「そもそも」「せつな」

「いらっしやいませ」「特盛りと卵」

「ビックマックアップです。(サンキューです)」

男4は焦りながらもなんとかすべての人に「挨拶」をかえしていく。

誰かが机を持ち上げながら「んんっすっ」とかけ声なのか挨拶なのか判別しにくい声を出す。男4はどうしようか迷うが、その人がはけるギリギリ前に「んんっすっ」とかえ

す。

女が電話をかけてくる。男4は携帯電話をとりだしてでる。

女　　ペるペる？

男4　　え？

女　　ペるペる？

男4　　・・・えっと、こずえちゃん？

「びーっ」と笛を吹きながら男1がでてきて、男4にレッドカードをだす。

男4　　いや、ちよつとまってちよつと、そんな、今はその、だいたいちよつと挨拶しなかつたつてぐらいで、

男1と女は上空を見ている。それに気づいて男4は台詞を止めて、上を見る。

「ひゅーー」とかなり巨大なモノがかなり上空から男4の頭上に落ちてくる。のにあわせて暗転していく。

「ポトオオン」

明転する。

ホワイトボードが見える位置に出してあり、それを眺めている、男125。「うーん」と考え込んでいる様子。

ホワイトボードには何か文字が縦書きで書いてある。「ペロペロ」と読めるが、それもかなり怪しいぐらい字がよれよれである。また、頭文字の「へ」の「丸」がかなり細長く、そこで「血文字を書き終えたよう」になっている。

男1　　「ペロペロ」・・・

男5　　どういう意味なんだ・・・

男2　　いやあ、俺も長年刑事をやってきたが、こんなダイニングメッセージは初めてだ・・・

男1　　まったくだ・・・

男5　　うん。確かにな・・・

男125は、全員ややしやがれた声でしゃべり方も似ている。

男3　　(走り込んできて) デカ長。

男125　　なんだ？

男3　　聞き込みに行ってきました。

男125　　ごころう。

男3　　ですが、これと言った目撃情報はありませんでした。

男125　　そうか・・・

男3　　ただ、現場近くで沢山の人が「どすーん」というようなものすごく大きな音を聞いています。死体の状況から考えても、ガイシャの上に、何か巨大なモノが落ちてきたことは間違いありませんね。

男125　　うーん・・・

男5　　「巨大なもの」・・・

男2　　・・・、巨大な・・・

男1 ……「キャンディー」……?……

男125、ホワイトボードの文字を見る。

男125 うーん……

男3 とにかく普通の事件じゃないですね。おれ、前科者リストでガイシャにマエがな  
いか確かめてみます。

男125 頼む。

男3、退場。

男125 うーん……

男2 (急に気づく)ぬおっ!!

男15 どうしたデカ長?

男2 ・・俺たちは、とんでもない勘違いをしていたのかもしれないぞ・・  
男5 どういうことだよ

男2 いやな、これどう考えてもおかしいんだ。

男1 確かにな。

男2 まだ何もいっくらん!

男1 だからなんだ!

男5 なんだとはなんだ!

男2 やめるんだ!

男5 なんなんだ!

男1 おかしいんだ!

男2 何がおかしいんだ!

男5 やめるんだ!

男2 何かがおかしいんだ!

男1 何かって\なんだ!

男5 やめるんだ!!!

間

男5 (男1に)デカ長。頭を冷やせ。

男1 すまん。

男5 (男2に)おまえもだデカ長。

男2 すまん。

男125はたばこを取り出し、すう。

男125 で、何がおかしいんだ?

男5 ああ。俺たちはいままでこのダイニングメッセージを「ペるペる」だと思いきん  
できた。だが、そうするとおかしなんだ。

男1 何がおかしいんだ!

男5 なんなんだ!

男2 やめるんだ!

男5 何かがおかしいんだ！  
男1 やめるんだ！！！！

間

男2 すまん。  
男5 とりみだした。

男1 そう言うときもある。……いいか。俺たちが普通に「へるへる」と書くようにする。  
と、(ホワイトボードに書く。)(と、書き終わる最後は必ずここになるはずなんだ。  
(と最後の「ロ」の右下の角の所を指す。)(

男5 確かに……  
男2 続ける

男1 「へるへる」と書き終え、そこでちからつきたのだとしたら、こつなるはず。(と  
しめた「ロ」の右下の角から、ヨレヨレと線をのばす(しかし今回のこれは、  
最初の「へ」の丸の部分が、かつきてかすれている。  
どういことだ

男2 「犯人は」、「書き順を間違えた。」

男1 そういことだ！

男2 どういことだ

男5 そういことだろっ！

男2 まて！！良い線まではいってるが、まだ詰めが甘いな。

男1 なんだと

男5 まあまあ。

男1 すまん。

男2 いいか、こう考えて見る。ガイシヤは、これを書き順通りに書いたただし。「縦書

き」ではなく、「横書き」でだ。

男1 5 なにい！

男1 ……縦書きではなく、横書き……

男5 ……と、いことは……

と、男15は頭の中で縦書きの「へるへる」を横書きにしようとする。

男2 デカ長！……。デカ長！！！！

男15 (口々に)なんだ

男2 ……、見る！

男5 そうか……

男1 そうだったのか……

と、上体を横にしてホワイトボードを見る。と、横書きで「ロプロス」と読める。

男125 おお！！！！！！

男5 (指さしながら)「ロ」「フ」「ロ」「ス」

男125 おおおお！！！！！！

男5 ロプロスだ

男1 ロプロスだったのか。

男2 犯人はロプロスだ  
男5 ロプロスめー

間

男5 ロプロスってなんだ？  
男1 怪鳥だ。  
男2 怪しい鳥だ。  
男5 しもべだ。  
男1 バビル二世のしもべだ。  
男2 ♪みつつのしもべ、のうちの一つだ。  
男5 バビル二世という二世議員がバビルの党から立候補して、その後援会の会長がロプロスであるという芝居を昔した。  
男12 おお！！  
男5 最終的に、ロデムは公職選挙法にひっかって捕まった。  
男12 おおお！！  
男5 でも最近「バビル二世」がわからないお客さんも沢山いるのでこの話しの展開はなしだ。  
男12 そうか・・・

間

男1 「ロプロス」・・・一体どういう意味なんだ・・・？  
男2 これは・・・フランス語か？  
男5 ぽいな。  
男2 そうか・・・。こんな時に、パンタロンがいれば・・・  
男15 デカ長！  
男2 ・・・すまん。  
男1 パンタロンは、ずっと俺たちの心の中で生き続けるんだ。  
男2 そうだったな。

間

男1 むおっ！  
男25 どうした？  
男1 ちょっとまって、これを、こうすると・・・

と、男1は「ロプロス」の最初の「ロ」の横線部分を二本とも消し、二つ目の「ロ」の上の横線部と右の縦線部を消す。と、「ニプレス」とも読める文字になる。三人は上体をまげたままである。

男125 おお！！！！！！

男5 (指さしながら)「ニ」、「プ」、「レ」、「ス」

男125 おおおお！！！！！！

男5 ニプレスだ

男1 ニプレスだったのか。  
男2 犯人はニプレスだ  
男5 ニプレスめー  
男3 (入ってきて)デカ長。  
男125 なんだ  
男3 しらべたんですけど、ガイシヤにマエはありませんでした。  
男125 ごくろうさん。(男3、退場)ニプレスかー・・・  
男3 (また、入ってきて)デカ長。  
男125 なんだ  
男3 それ、ホワイトボードを横にすればいいんじゃないですか。  
男125 あ、そうか・・・(と、横にしにいく。男3は退場)  
男4 (男3と同じ所から入ってきて、フランス語っぽく)デカ長。  
男125 なんだ  
男4 (フランス語っぽく)お元気で。  
男125 ああ。

男4は退場。男125は90度回転させたホワイトボードに目線に戻す。

男2 あそつかあ、なるほどな。  
男1 まあそりゃそうだなあ。  
男5 デカ長ばかだなー！

間。ののち、一斉に男4のいた方にむかう男125。ホワイトボードから手を離してしまい倒れそうになる。誰かはそれを支えに戻るが、目線は男4のいたところにむけられている。目をこすったり。

男2 今、そこにパンタロンいなかったか？  
男1 たしかに見えた、気がするんだが・・・  
男5 見えたというか、しゃべっ、ってた・・・

不安になる男125。

男2 (言い聞かすように)デカ長、おまえちょっとつかれてるんだ。  
男5 そうだそうだ。最近あんまりやすんでないだろ。  
男1 気のせいだ気のせい。気にするな。

鼻で大きく息を吸い、そして鼻から吐く。

男5 ニプレスニプレス。  
男1 そうそう  
男125 うーん・・・(などと考え込む)  
男5 はおっ！  
男12 どうした  
男5 ちょっとまで、これを、こうすると・・・

と、男5は「ニプレス」とかいてある左に「圧縮」とかく。  
「圧縮ニプレス」とも読める。

男125 おおおおお!!!

男2 なんかすごい!

男1 いや、ガイシャの死因が、何か巨大なもの下敷きになったことによる圧死であることを考えれば、これはただの偶然だとは思えん。

男5 確かに・・・

男2 ちょっと待て。これまで捜査線上に浮かび上がってきている容疑者は・・・

と、ホワイトボードの「圧縮ニプレス」の下に縦書きで左から「中村」「駒田」「田中」「岡島」「ファック」「谷」と書く。

男2 この六人だ。この中でも特にあやしいのはこの二人だ。「駒田」「田中」指し示しながら)

男5 どういうことだ?

男2 いいか。この部分。縦から読んでも横から読んでも「駒田」「田中」になる。

男15 おお。

男2 はたしてこれは偶然だろうか?

男1 そうとは考えにくいな。

男5 まて、犯人はこの六人以外の人間だとも考えられないか。たとえば、「村田」「田岡」「中島」あたりはかなりあやしい。

男2 なるほど

男5 仮に、「岡フ谷」という名字の人間がいるとすれば、そいつはもう犯人だ。

男1 うん間違いない。

男2 だーいぶ犯人像がしぼれてきたぞ。

男1 でもー、何かひっかかるんだ。

男5 デカ長、かまわん言ってみる。

男1 ああ。「岡フ谷」のことなんだが、

男2 やつがどうかしたか?

男1 本当は、「おかふたに」ではなく、・・・『岡「大なり」谷』なんじゃないか?

男25 あっ!!!

男2 そおおかつ、なんでこんなことに今まで気づかなかったんだ!

男5 盲点をつかれたな。

男2 たしかにそうだ。『岡「大なり」谷』。しかも、このイコールをこっちにもってくれば・・・と『圧縮ニプレス』の「ニ」を消し、「岡>谷」「岡フ谷」の「>」「フ」の下に「ニ」を書く。『岡「大なりイコール」谷』。こう考えれば全てのつじつまが合う。

男1 そうだったのか・・・

男2 まんまとだまされたってわけだ・・・

男5 ・・・・これは言おうか言うまいか悩んだんだが・・・

男12、男5の方を見る。

男5 古い知り合いの情報屋からとんでもないことを聞いてな。「中村」「駒田」。この二

人。できてるらしい。  
男2 本当か？(男1に)  
男1 ばかばかしい。  
男2 本当か？(男1に)  
男1 事実無根だ！  
男5 デカ長！・・・いやさ、「駒田大介」。またの名を「岡大なりイコール谷大介」観念しろ。ネタは全部上がってるんだ。

男1、ひざからくずれる。

男2 デカ長・・・どうして、デカ長が・・・  
男5 これで謎は全て解けた。つまりは、こういうことだ。当時、(ホワイトボードの「中

村」と「駒田」の間にアイアイ傘をかきながら)駒田大介と中村こずえは恋人の  
関係にあった。ところが、(と、今書いたアイアイ傘を消して、「田中」の「田」  
と「中」の間に、真ん中の縦線を繋ぐ形で少し小さめのアイアイ傘を書きながら)  
この中村こずえが、ほかの男に恋をしてしまい、駒田は捨てられた。

おでんだ・・・

男5 (上の横書きの「プレス」の文字を使って、「プ」の丸が目、「レ」がもみあげ、「ス」  
が耳になる、人の横顔の絵を描きながら)恨みに思った駒田は、・・・別人、・・・  
つまり、デカ長になりすまして・・・(絵を見せ)おでんを食べようとした。と  
ころが・・・

(静かに笑う)

男5 何がおかしい？

男1 ふはははは・・・

男5 やめろ！仮にもデカ長だった男が、みっともないことするんじゃない！

男2 デカ長。

男5 なんだ？

男2 俺は・・・俺は最後までお前を信じたかった。

男5 なにを言ってるんだデカ長？

男1 語るに落ちたな。

男5 なに？

男1 いや、「書くに落ちた」。か・・・。(と、ホワイトボードのところへいき、顔の絵に  
少し書き足していく)

男5 何を言ってるのかさっぱりわからんな。

男2 すべては芝居だったんだよ。

男5 ・・はめやがったな

男2 そういつてるだろ！

男5、逃げようとする。

男12 動くなー！！(と、拳銃を取り出し、銃口を男5に向ける)

男5は止まる。

男1 こつちを向け。



男5は男2の方を向く。ちょうど客席からはホワイトボードの顔の絵と並んで、男5の横顔が見える。そっくりである。

男2 それ。おまえじゃん。

やがて、男5は泣き崩れる。

女が下手のつらにでて来る。テレビを見てないている。

「太陽にほえる」のテーマ、携帯の着メロバージョンがながれる。

女の携帯が鳴っているのである。

男1は男5を連れて退場。男2はホワイトボードを裏返してから退場。

女 (携帯をとり、誰からの着信か確認してから) ペシペシ？

男3 (上手の奥に入場してきて) ペッシー俺。

女 うん。

男3 何？ないてるの？

女 うん。

男3 どうちたの？

女 二転三転するストーリーなの。

男3 え？

女 切るね。(電話を切る)

男3 え？いやちよつとっ、……。もー、そういうところが好き、ああ……

男3、気分を変えて、また別の所に電話をかける。

携帯の着信メロディー。男4が下手の奥に入場してきて、電話を取る。

男4 (誰からの着信か確認してから) まいどっ

男3 (わらいながら) まいどっ。

男4 おいーす……

男3 おいおいー……

男4 どしたの？

男3 今暇？

男4 いや、今からくっちゃんと一緒にジム行って

男3 泳いでくんの？

男4 ううん。筋トレ。

男3 なにそれえ？

男4 いや、今静かなブームだからね。

男3 「筋トレブーム」？

男4 うん。

男3 ないだろそんなの。

男4 なに言ってるんのおまえ、今、老若男女が筋トレに夢中なんだよ。

男3 うそだー……。

男4 お前はそーゆーとこ鈍感だからな……。

男3 ああ、……。とこでさ明日暇？

男4 明日はね。一人でジムに行って筋トレ。

男3 何になりたいのおまえは？  
男4 ごめんな。また今度。  
男3 おい。じゃ、がんばって。  
男4 はい。んじゃねー。  
男3 はい、じゃー、はいはい、……  
男4 はいはい。んじゃまた、はいー……

男3は退場する。男4は、電話をかける。  
携帯の着メロ。男2が上手のつらに出てきて着信相手を確認してから電話を取る。

男2 まいどっ！  
男4 まいどじゃないよ。なにしてんの？  
男2 ごめーん。  
男4 何？ひよっとしてまだ家？  
男2 するどいね。  
男4 おーい。おまえ何考えてんだよ。  
男2 ごめんって。用事済ませてすぐ行くから。  
男4 どれぐらい？  
男2 すぐすぐ  
男4 すぐってどれぐらい？

の台詞の途中で、男2は電話を切っている。

男4 ……もしもし？もしもし？…(かけなおす)

、男2が電話を切った直後、男5からかかってくる。

男2 (着信相手を確認してから出る) うーい。  
男5 (下手つらにできてきて) うーい。  
男2 どうだった？  
男5 だめ。  
男2 まじでぶ  
男5 いややっぱむりだって。  
男2 なめてんなあ…  
男5 いやいやいや  
男2 じゃあさじゃあさ、花火は？  
男5 いやだから、室内だからさ。  
男2 とりあえず聞いてみてよ。ね、(と言って切る。退場)  
男5 いやむりだって、……もしもし？もしもし…もー…(と、電話をかける)

固定電話の着信音。女が上手奥入場してきて電話を取る

女 はい、京グラ。  
男5 あの、西野ともうしますが。  
女 はい。

男5 披露宴の余興で、火薬とかは使えますかね？  
女 無理。(と切る)

男5は退場。ふたたびかかってくる。

女 はい、京グラ。

男1 (下手奥にでてきて)……。

女 もしもし？

男1 あ……え……

女 もしもし？

男1 あの……

女 お父……さん？

男1 ああ。

女 なに？どうしたの？

男1 いや、元気か？

女 うん。なに？なんかあった？

男1 いや、うん……

女 もしもし？

男1 じゃ……(と切る)

女 もしもし？もしもし？(怪訝そうに退場)

男1は電話をかける。携帯の着信音。

男4 (下手のつらに出てきて。電話を取る)もしもし？

男1 あ……え……

男4 ……え？おやじ？

男1 ああ。

男4 うん。

間

男4 え？なに？

男1 元気か？

男4 元気だよ。

間

男4 もしもし？

男1 じゃ……(切る)

男4 もしもし？もしもし？(退場)

男1は電話をかける。固定電話の着信音。

男3 (上手の前にてきて)はいもしもし「心の相談室」です。

男1 あ……え……

男3 どんなおなやみですか？

男1 えー・・・、子供達と、うまく話せないんです。

男3 ああ。

男1 会話がほとんどなくて・・・

男3 そうですか・・・。いえ、最近そういうかた多いんです。奥さんも含めた「家族」。

つまりは「家庭内の会話」はほとんどないかたが。

男1 どうしたら、・・・？

男3 うーん・・・。まずは、しゃべることですね。

男1 (間) ああ・・・。

男3 じゃあ、今からですね、僕のことを、息子さんだと思って、少し僕とお話ししませんか。

男1 え？いや、あ・・・。

男3 そう、息子さんとしゃべるときのための予行演習だと思って、ね。

男1 いや、その・・・

男3 おとうさん。その引っ込み思案がよくないですよ。

男1 いや、あの・・・

男3 なんですか？

男1 設定は・・・？

男3 え？

男1 「秋晴れの屋下がり。河川敷の公園にて、少し気恥ずかしそうにキャッチボールをする親子」

男3 あ、いいですよ、それで。

男1 どうだ？(と、球を投げるパンツ)

男3 え？あもう始まつてるんですね。(と投げ返すパンツ)

以降、男13はキャッチボールをするパンツを続ける。

男1 最近、どうだ？

男3 え？

男1 調子は？

男3 うん。会社にももう慣れたし。ぼちぼちな。

男1 そうか。

男3 社長に怒鳴られるのも慣れたよ。

男1 ははは。どんな仕事任されてるんだ？

男3 うん。宴会部長☒

男1 (笑) それも大事な仕事だ。

男4が下手つらにでてくる。男1とキャッチボールをするパンツ。

男1 最近、どうだ？

男4 え？

男1 調子は？

男4 うん。部屋にももう慣れたし。ぼちぼちな。

男1 そうか。

男4 親方に怒鳴られるのも慣れたよ。

男1 ははは。どんな仕事任されてるんだ？  
男4 うん。チャンコ奉行☒  
男1 (笑) それも大事な仕事だ。

キャッチボールを続ける。  
上手の奥に男5ができてきており、男3とキャッチボールをしているパント。  
上手の男53親子と、下手の男14親子のキャッチボールのパントマイムの動きは完全にシンクロしている。

男5 ……しかしあれだな。営業も大変だろ？  
男3 まあね。腹立つことも多いけど、石の上にも三年って言うから。  
男5 そうだな。がんばれよ。  
男3 父さんこそ。

男1 ……しかしあれだな。横綱も大変だろ？  
男4 まあね。胸貸すことも多いけど、立ち会いが全てだって言うから。  
男1 そうだな。つっぱれよ。  
男4 どすこい。

男5 ……で、話って何だ？  
男3 うん。実は俺、今さっちゃんときあってるんだ。  
男1 5 え？  
男1 一遍って、あの一遍？  
男4 うん。あの踊り念仏の…  
男1 そうか…。それはいつごろからつきまとい始めたんだ？  
男3 4 大学の頃から。  
男5 そうか…。まあ、幼なじみだしな。父さんも、まあいろいろやりやすいっちゃあ、やりやすいけど。  
男3 ……？何が？  
男5 何がっっておまえ…。  
男3 ……？え？なに？  
男5 結婚するんだろ？  
男4 て、鉄拳って、そんなのまだまだガキのあかしだよ。  
男1 何言ってるんだ。おまえももう井伊直弼だろ  
男4 そりゃそうだけどさ。  
男5 男ならな、いつかはじめを付けるときが来るもんだ。  
男3 ……。いや、考えてない訳じゃないんだ。実際そついう話も二人でしてるし。  
男5 そうい話？  
男3 いや、式あげるならどんなとこがいいとかさ。  
男5 そうか…、いやそれならいいんだけどな…。式を挙げるなら…。母さんにも、来てもらって

男3 父さん！

男4 ラーメンの話はもうよしてくれ！ヒロヒトはもう赤の五級なんだ。  
男1 おまえ…おまえそんなで肩はないだろ。(と、ゆっくり振りかぶる。野球のピッチャーの投球モーション。男4はキャッチャーのように座って構える) おま

男4 えの、おまえの夏のスーザンじゃないかっ!。(投げる)  
バスンっ!!

歓声

男1の言葉(玉)は男4の心に大きく響いたようだ。キャッチャーマスクを脱ぎ捨て、男1に駆け寄り、抱きつく男4。男3も同じように男5に抱きつく。歓声の中、テニスウェアの女と男2が試合前のテニス選手のように、鞆を持って入場してくる。イスに座り、ラケットをカバーから出したり、靴ひもを締めたり準備をする。その間に男1345は、退場する。

歓声はやがてやんでいる。

女と男2は立ち上がり、上下にわかれて対面する。

「テニスの試合前の練習」のパント。お互いに台詞の時にラケットを振って、ボールを打つパントをするが、この時点では「練習」なので、そんなに力を入れない。

女 (ボールを片手で上に挙げサーブしながら) 最近、遅いわね。

男2 そうか?

女 そうよ。

男2 遅いかな?

女 ええ。

男2 そっか・・

ボールはネットにひっかかったようだ。男3が小走りで入ってきて、舞台の真ん中でボールを拾うパント。男3はボールボーイである。拾った後は、舞台の隅っこの方に片膝を立てて座って身構えている。

男2 (ボールをポケットから出して、サーブ) あー、山下だよ。

女 山下?

男2 うん。

女 新しい彼女?

男2 何言ってるんだ。

女 ちがうの?

男2 部下だよ。

女 受付の子?

男2 営業の男。

女 ふーん。

男2 そいつがなにかっつーと

女 なに?

男2 相談してくるんだよ。

女 頼りにされてるじゃない。(と打ち返すと、すたすと自分のイスに戻る)

男2 それがまたヘビーでさ。

と、男2は返すが、コートにもう女はいない。男2は女に視線をやったあと自分のイスに戻り汗を拭ったり。

男3は舞台中央奥にイスを前向きに一個セットする。

男1が入ってきてそのイスに座る。審判である。

歓声。

女と男2は男1を挟む形でネット越しに握手をし、コイントスの代わりに「なかなか勝負の付かない、且つ、良くルールのわからないジャイケン」をする。「軍艦」と「あっちむいてほい」と「ビームフラッシュ」を足したようなもの。女が勝ち「ボール」を選択。男2はコートを選択する。

ひときわ大きな歓声ののち、静寂。女のサーブ権で試合が始まる。女は上手やや後方。男は下手やや前方で、舞台に対してはやや斜めに対峙する。

女 昨日は、どこいったの？

男2 昨日？

女 そう昨日。

男2 昨日？

女 昨日の晩

男2 昨日の晩は

女 どこいったの？

男2 そうだ。

女 なによ。

男2 ああ、山下だよ。(かなり深く打ち込まれて、苦し紛れに高いロブを上げている)

女 (ボールを見上げて落ちてくるのをまちながら) おかしいわね、電話があったの

男2 よ昨日の晩！(スマッシュ)

女 (ギリギリ拾い) え？

山下さんからっ！！(前方に詰めてきていて、強烈なスマッシュ)

さすがに、拾えない(いいかせせない)男2。

歓声。

男1 フィフティーン、ラブ。

以降も、この夫婦喧嘩のなかで、「押されている」とか「いいかせせない」とかが、テニスの動きとシンクロする。

やがて歓声は収まっている。以降も点があることに歓声が起こり、そして静まる。

また、テニスでやるように、一セットごとに、サーブする位置を右左入れ替える。つまり、今度は女がやや前方に、男2がやや後方にポジションを取る。

女 「課長いらっしやいますか」っ

男2 ええ？

女 そういったわよ。

男2 ああ。

女 どういうことなのよ。

男2 どういうことなんだ？

ボールはネットに引っかかるが、女のコートに落ちる。

男3はとりにいく。

男1 フィフティーンオール

男2は落ち着こうとしている。

女 あなたね。

男2 そうだ

女 なによ。

男2 思い出した。

女 何を？

男2 かけてたあいつ。

女 はあ？

男2 かけてたかけてた。

女 何言ってるの？

男2 俺の目の前で。

女 バカじゃないの？

男2 よっばらって。

女 つまらない嘘、

男2 なにが？

女 つくんじゃないわよ。

男2 嘘じゃないよ。

女 嘘よ。

男2 嘘じゃない。

女 やめてよ。

男2 本当だって。

女 サイテー

男2 おまえな！

女 なによ？

男2 俺が信じられないのかー！

ボールは大きくコートの外へ

男1 アウト。。。サーティ、フィフティーン。

男2はかなり興奮している。

女 受付の細見って、子でしょ！

ボールはコートを逸れる。

男1 フォルト

女 (セットし直し) サービスの、吉村佐知子お！

ボールはコートを逸れる。

男1 フォルト。。。サーティオール

女 (立ち位置を変え、セットして) 経理とみせかけて、医務室の女ドクター！



男2 一歩もうごけず、サービスエース。

男1 フォーティ、サーティ。

女 なんとかいって、みなさいよ。

男2 愛してる！

リターンエース。

とまどう、女。気合いの入ったいい表情の男2。

男1 デュース。

女 (サブにもやや迷いが見える) なによいまさら。

男2 愛してるんだ！！

またもやリターンエース

男1 アドバンテージ、オット

女 (かなり、迷いが入っている) 信じて、いいの？

男2 あたりまえだ！

女 ホントに

男2 世界で一番！

女 でも、

男2 お前が好きだ！！

女 でも、

男2 なんだ？

女 もうわたし、

男2 どうした？

女 だまされるのは嫌。

男2 俺の目を見るお！

女 はっ

男2 きらーん！

女 クラクラ・・・

男2 お前を幸せにするのハア(の台詞の途中で、男2の携帯が鳴る)

女 わたしをしあわせにするのは？

と、「スマッシュをうってください」と言わんばかりのチャンスボールを返すが、男2は携帯が気になって、

男2 この、あの、おれ、だ

と、なんか閉まらない感じの言い方をしてしまい、ボールはネットにかかる。

男1 デュース

男3はボールを取りに行く。

男2は女に目をやる。女はすっかり冷静にもどってしまっていて、「出なさいよ」ってか  
んじ。男2はコートの中の隅の方について電話を取る。

男2 (小声で) もしもし?・・・ああ、ああ!ーうん・・・その件ね?うん。・・・  
んっえ?あー・・・うん、そういう、方向で、はい。じゃあ、(などと)、しどろも  
どろでかなり怪しい。とりあえず電話を切る)

もうすでに女はサーブの体勢でスタンバっている。男2は男1と女に「おまたせ」とお  
辞儀をしてポジションに戻る。

女 (ボールをほうり上げず、練習でやるように下から優しくつつ) わたしね・・・  
男2 (意表をつかれて、前のめりになりながらコートの前方へおびき寄せられる)・・・  
う、うん。

女 (すごいいきおいで前にはしりこんできて) 実家に帰る!ー!ー!

殺人スマッシュが男2の腹部に直撃する。悶絶する男2。女はさっさと荷物をまとめ始  
める。

男1 アドバンテージ、ツマ。

男3はボールを拾いにいった後、そのまま退場。

男2 おい、・・・おい、ちょっと、まって、あいたたた・・・ちょっとまってねえ。

女は荷物をまとめて退場。

男2 ちょっと、・・・審判。まだゲームは終わってないだろ?

男1は笛を吹いて、男2に近づき、サッカーの審判がカードを出すように、ポケットか  
ら、折り曲げた紙を出し、それを掲げた後、男2に渡す。

男2はその紙を広げてみる。離婚届である。

男1は「名前を書いて、判子をつけ」と言うゼスチャーをする。

男2はうなだれる。

男1は高らかに試合終了のホイッスルを吹く。歓声のなか暗転。

明転すると男45。卓球のユニフォームを着ている。上のテニスと同じように会話しな  
がら卓球をする。

男5 (サーブ) おまえは、死ねッ

男4 死ねッ

男5 死ねッ

男4 死ねッ

男5 死ねッ

男4 死ねッ

と何度か繰り返し返した後、やや男4が押され始めて台詞が変わっていく。

男4 アホかつ  
男5 死ねッ  
男4 アホかつ  
男5 死ねッ  
男4 うっさい  
男5 死ねッ  
男4 うっさい  
男5 死ねッ  
男4 それしかつ  
男5 死ねッ  
男4 それしか言えへんのか？(と苦し紛れにチャンスボールをあげてしまう)  
男5 おまえは死ねッ(スマッシュ)  
男4 いやじゃ、(倒れながらも拾うがまたあげてしまっ)  
男5 三回死ねッ！(スマッシュ)

決まる。男4は悔しそうに泣く。男5は、はあはあいつている。

歓声。暗転

明転する。男2が入場してくる。

ゴング。

男2は一人で見えない相手と戦う。結構よわいらしく、すぐに見えない相手に技をかけられて「いたいたいいたい……」とか言い出す。でも、敵はお客には見えないので、要は一人でやっているのである。

ギブアップする男2。ゴング。

歓声。暗転。

明転する。上下からそれぞれ男3と男1が、死地へ向かう剣の達人のそのように「厳かに」、そして、なにかの「格式」にのっとり、入場してくる。剣道のように中央で向かい合い、しゃがむ。そしてそれぞれ包丁をとりだして、構え、ややのあと、立ち上がり間を取り直す。「ドンッ」と和太鼓の音が一発。「死合い」が始まる。お互いにゆっくりとしか動けない。相手のそして自分の一挙手一投足が、「命」と「ミット」している。それはまるで「能」であり、「舞踊」である。

ひらひらと、木の葉が一枚おちてくる。

二人は、動かない。

曲が入る。やがて「包丁人」は増殖していく。

六人にまで「庖丁人」が増殖すると、曲が消える。

「六人の距離」の明かり。

包丁を構えて距離を保ったまましゃべり出す。

男2 (決意を固めしゃべりだす) なんだったんだらうな？あの、自分で自分に課した意味のないルールは。

一同 なあ(など)

男4 課してましたね、ルール。

男1　しかもさあ、「このルールを守れなかったら、俺は死ぬ」とか。  
一同　そうそうそう。  
男1　なあ！  
男2　なんだったんだるうな？あれ。  
一同　ねえ(など)  
男2　ほら、「ゴミ箱にゴミ一つ入れるのに、わざわざ離れて、投げて、それで入らなかつたら「俺死ぬ」って、  
男5　ちよつとあれだよな、こう、自分に敵しすぎるよな。  
女　ああ、自戒ですよな。  
男2　自戒ね。  
男5　うん。俺たちは、昔はもっと自分に敵しかった。  
一同　ああ。  
男3　そして、やたらめつたら「命をかけ」ませんでした？  
一同　ああああ！！！かけたかけた(など)  
男1　一日に3回ぐらいかけてた。  
男4　何かっつーとかけてましたね。  
男3　すっごいささいなことにも、命をかけてとりくんできましたね。  
男2　あれ、あの頃、女の子もやっぱ、命かけちゃったりなんかしたっ、・・・(台詞を噛んだ)

問  
暗転していく中、男2以外の五人は全員包丁を前にかまえたまま、男2の方へ歩いてよっていく。  
明転すると、男2はいない。五人になって、また包丁をかまえたまま均等に距離を取っている。  
問

男3　「なにか」、「話しましょうよ」。  
女　(問)「なにを？」  
男3　(問)「なにをっつて」だって、このままじゃ、うちがあきませんよ。  
男1　(問)「そうかな？」  
男3　そうですよ、だって話し合わにゃいこ、・・・

暗転していく中、男3以外の4人は包丁を前に構えたまま男3の方へ歩み寄っていく。  
明転する。と男145と女。同様に距離を保っている。  
沈黙。  
男5は、いきなり大きく息を付く。みんなの注意が集まっているのを確認し、大きな決意を持って、包丁持っている手をゆっくりとおろす。そして包丁を床に置く。「もうこんなバカなまねはやめよう」という意思をつたえるように、残りの三人を見つめる。  
男14女の三人は、少し驚いた様子。そののち互いにアイコンタクトを取る。各自、小さく息を付き内省する。が、息をすい、やっぱり、男5の所へ歩み寄っていく。暗転していく。

明転。すると、夕暮れ時。男2がたばこをくゆらしている。男3が入ってくる。

男3　デカ長。鑑識の結果が出ました。死因は、三人とも失血死です。三人とも胸部と



男2 関西全域のJAが・・・JAなら、大学の同期がつとめています。今から  
男3 ばかもん！！

男2 お前が考えているほど事は、単純じゃないと言っただろう。

男3 ・・・・どういふことですか・・・まさか・・・

男2 そのまさかだ。

男3 農林水産省まで

男2 そうだ！だがそれだけじゃない、文部科学技術省も動き始めている。これはただ  
の連続殺人じゃないんだ。

男3 一体・・・何が起こってるんですか？

女 (駆け込んできて) デカ長大変です。テレビを見て下さい。

女はテレビをつける。三人テレビを見る。

男3 天気予報、が、どうかしたんですか？

女 見て下さい。大阪や滋賀、その他の関西の地域すべてが晴れマークで降水確率0  
パーセントですが、京都府南部にだけ「大雨洪水警報」がでています。

男3 強風警報もだ

女 デカ長、これは・・・

男2 奴らが本気になったって事だ。

このころから、緊張感をあおる音楽がかかっている。

男3 どういふことですか？

女 気象庁による情報操作よ。これから京都府南部に起こることをカモフラージュし  
ようって魂胆ね。

男3 なにおこるっていうんですか？

女 それはわからないわ。それとデカ長、京都府下のすべてのJA支店が今朝からシ  
ヤッターを閉めたままだそうです。電話にもでません。

男3 ちよっと、ちよっとまってくれよ！デカ長。奴ら一体何を企んでるんですか？

男2 「聖護院ぎゅうり」

男3 え？

女 「聖護院ぎゅうり」っていうのは、今から150年ぐらいまえに絶滅した京野菜  
よ。今まで古い書物でしかその存在は知られてなかったし、本当に存在したのか  
もよくわからない、いわば「神話的京野菜」だったの。それが一ヶ月前、偶然、  
左京区にある古い農家で、とりつぶされるまえの納屋から、壺に保管された「聖  
護院キユウリ」の種が発見されたの。この奇跡的な発見に科学者や歴史学者たち  
は騒然となったわ。でもその後、その種は何者かによって盗まれた。それが二週  
間前。

男2 やつらは文部科学技術省と水面下で手を結んだ。遺伝子操作、バイオテクノロジ  
ーを駆使して、伝説の「聖護院キユウリ」を現代の日本に復活させようとしてる  
んだ！！

男3 そんな・・・

女 デカ長！見て下さい！(テレビ画面を見ながら)  
男2 ん？(と画面を見て、何かに気づき険しい表情)

男3 (画面を見て)このアメダスの画面が、どうかしたん、・・・(気づき)はあっっ!!  
四国が、ない!

男2 ・・・始まった。

女 デカ長。

男2 うむ。俺たちの手でなんとしても「聖護院キュウリ」の復活を阻止するんだ。さもないと日本の、いや地球の生態系は破綻を来たし、やがて、この星は・・・  
男3 なんのためにそんなこと。そんなことになったら奴らだって困るじゃないですか?

女 やつらにはH2ロケットがあるのよ。

男3 そうか!なんてこった・・・

男2 シェルター!

男3 はい。

男2、男3の腹をなぐる。曲C.O.

男3 (崩れながら)・・・どうして・・・?

男2 お前には結婚したばかりの嫁さんがいるだろ。

女 女を泣かす奴は刑事失格よ。

男3、気絶する。

男2 すまん。巻き込んでしまっただ。

女 いいえ。いいんです。私、デカ長とだったら。

二人見つめ合う。

男2 じゃ、行くか。

女 (うなづく)

男1 (登場しながら) 抜け駆けはないだろ。

男2女 デカ長。

男1 えらく水くさいじゃないか、俺に黙って二人だけでいこうとするなんて。デートのおじゃまかな?

男2 デカ長。いいの?死ぬかもしれないぞ

男1 長生きしすぎたぐらいだ。それに、死ぬとは限らん。たとえ相手がどんな巨大な敵でもな。生きて帰るためにも、二人より三人だ。ちがうかデカ長?

男2女 デカ長・・・

男5 (入場してくる)それを言うなら、三人よりも四人だ。

男12女 デカ長!

男2 いつもシヨからでてきたんだ?

男5 ついさっきだ。悪いとは思ったが盗み聞きさせてもらったよ。まさか本気で俺を置いて行くつもりじゃなかったよな?

男12女 デカ長・・・

男4 (入場してきて、フランス語っぽく)ダレカ、ワスレチャイマセンカ?

男125女 パンタロン!

男2 いつ生き返ったんだ?





男3は悪魔に変身していく。

女 はっ、シエルターの体が！シエルターあなた、「聖護院キュウリ」を食べたのね？

男3 神話は今。現実となる。おそれおののくがいいおろかな人間どもよ。

女 おろかなのはあなたよ。あなたは利用されてるの。それがわからないのよ

男3 ほざけ。。。ピーマン、白菜、この女を地下の牢屋に閉じこめておけ。

暗転。曲クイックF. I.

スライド「深まる謎」

曲クイックC. D. と同時に明転

男125がいる。

男1 どういうことだ？

男5 そういうことだ。

男2 どういうことなんだ？

男1 そういうことか。

男5 そういうことなのか？

男2 どういうことってなんだ？

男1 そういうことなんだ。

男5 なんだったってなんだ？

男2 なんだったってなんだ？

男1 どういうことだ？

と、くりかえしていくなか、舞台上に米茄子がころころと投げ込まれる。  
気づく三人。ややの間ののち

男1 ふせろっ！！

三人伏せる。

暗転。でかい爆発音。

曲F. U.

スライド「巨悪に立ち向かう」「三人のデカ長」「忍び寄る」「なぞの中国人」「そして戦いは」「宇宙(そら)へ」

曲がフェードアウトして、宇宙っぽい音が入る。とあわせて明転

女男2が舞台の上手前方にいる。無重力である。

舞台の下手の奥に、男5が祈るような体勢で立っている。

男1は下手の前。男5は上手の奥にて何かを操縦しているようだ。

それぞれ別空間。

女 まって、今何か、歌のようなモノが……

男4 (何かを小さい声で歌う。歌い続ける。)

男2 この声は……パンタロン！

男1 デカ長！なにをしている？早く合体するんだ！

男5 デカ長！しかたがない。デカ長はほっておいて、二体合体だ。

男1 しかしそれじゃひまわりには  
男5 完全体でなくても時間は稼げる。いくぞお!

ゴシューーウウンとかいう、宇宙でのメカの合体する音

男2 俺は・・・俺は一体誰なんだーに教えてくれ。パンタローンー!!

暗転。曲F・O.

スライド。「天国のフランス人」

明転すると、男4がイスに座って、足を組んでいる。

その後ろに天使がいる。ギターをもっている。

演奏が始まる。「オラはしんじまっただ\フォーククルセイダース」のフレンチギターポップバージョン。

男4 (フランス人っぽく) ♪オラハ、シンジマッター・・・

暗転していく。

スライド「財布をなくしたアメリカ人」

明転する。男3いる。

男3 アーハ?アーハ?(といいながらポケットをさぐっている)・・・財布をなくしちゃったよー!!!・・・こんなこと。よくあるよねえ。でも、あわてない。テレビの前の皆さん。そんなときこそこのっ、「マジカルステッカー」の定番です。この「マジカルステッカー」を財布に張っておけば、なんと、またたくまにもどってきてしまいます。デザインもおしゃれで、レジャーにもオッケイ!・・・

などつつづけるなか、暗転していく。

スライド「財布をなくした日本人」

明転する。六人がいる。気まずい感じで黙っている。

男3 (沈黙を破り) なにか、話しましょうよ。

女 なにを?

男3 なにをって・・・だってこのままじゃちがあきませんよ。

男1 そうかな。

男3 そうですよ、だって話し合わないことには、・・・

間

男4 いや、だから。何度も言いますが、僕はその机の上に置いたんですよ。

間

男3 だから?

男4 いや。

男3 「おれは悪くないぜー」ってこと?

男4 いやだから、悪いのは僕です。不注意でした、はい、すみません。  
男5 なんだよそれ？

男1 うん。

男4 いや、

男5 ちよっとかんじわるいよな。

男1 まあな。

男4 いやそう言う意味じゃなくて、その。

女 いやね、あなたの財布だけなら、どこに置こうとあなたの自由だけど。

男4 はい。だから、すみませんでした。

男5 そのさ、「だから」って言うのが余計なんじゃないの？

男1 うーん

男2 もう。．．やめよ(男5に)

間

男4 あの、本当に、反省してます。

男2 うん。わかってるから。．．ほら、こいつ嫌がってたからさ。

女 嫌がってたからなんですか？

男2 嫌がってたこいつに、無理矢理押しつけたのは俺らだし、

男3 それとこれとは関係ないんじゃないですか？だって、みんなの財布預かったんなら、嫌だとか、そーゆー

男1 もういいもういいもういいもついい。．．．。わかった。だから、その話をしても仕方がないのよ。

間

男5 見え。貴重品袋は、あの机の上に置きましたと。

男4 はい。

男5 見え。この部屋には、この六人以外、誰も入っていませんと。

男4 はい。

間

男5 どうしようかね？(笑)(間)こまっちゃったねー。．．．えーと。．．

と、一番しゃべっている男5にやはり、全員が目線が集まる。

男5 え？。．．．なんだよ。．．．いやいやいやいや。．．．いや、しゃべってるよ、

しゃべってるけどさ、お前らが黙ってるからでしょ？ちよっとやめるよ。なんだ

よそれ、俺じゃないよ。俺じゃないって。．．．

などと台詞は続くが暗転して行く。

明転すると男5はいない。

何度か出てきた「六人の距離」の明かり。残りの五人は無言でプレッシャーをお互いにかけてたりしている。距離を詰めたり離れたり。体の向きをそらしたりむけたり。基本は

お互いに均等な距離をとるといふものに、「疑い」であつたり「おれじゃないよ」「であつたり」の力が加わっており、個人個人の力関係はファジーに変わっていく。

やがて暗転して。ふたたび明転すると男4がいなくなっている。同じ事を4人で繰り返す。その後暗転の旅に男2、男3が姿をけししていく。

残った男1と女。二人は同じ事を繰り返すが、それは「恋を知り始めた、恥じらう二人」の様にも見える。「つたないかけひき」「よりたのによらない」

曲がかかる

「The Microdiscal World Tour\コーネリアス」

やがて、二人の移動する軌道は円を描き始める。客席から見ると。男の背中が見え、しばらく二人がまわっていると、今度は女の背中が見える。女は背中にスタンガンを隠し持っている。

暗転。

ややして明転する。

男1が倒れている。そのよこに「聖護院かぶ」

暗転する。

明転する。

役者が六人並んでお辞儀をしている。

暗転する。

おしまい